



ひらひらごより

NO.11 2014.1.31

暦の上ではまもなく立春ですが、冬の寒さはこれからが本番。木々は眠り、雪と氷に覆われる長い軽井沢の冬。真っ白な雪の上にはてんてん...といくつもの足跡。野ウサギ、リス、キツネ、野ネズミ、小鳥たちの足跡も子どもたちと見つけました。

葉や木の葉がなくなつた冬の森で彼らは日々、命がけで生き抜いていることでしょう。

でも、そんな厳しい寒さの中でひたすら眠り続ける動物もいます。しかも11月から5月までのなんと、7ヶ月もの間。それはマリネズミ、コオリネズミともよばれる「ヤマネ」という動物です。7ヶ月の間、ヤマネはなんと1体温を0度近くまで下げ、1日拍動も止まり、食わず、食わずで眠り続けるのです。そして、森の木々が芽吹き、鳥たちが子育てをはじめると、ようやくヤマネは目覚めます。しかも、そのときも1日時間以上かけて、ゆっくりと目覚めるのです。そのような特異な生き方で、多くの生物が絶滅した氷河期時代から現代まで、ヤマネは生きぬいてきました。

ヤマネにとっては、「目覚め続けることが生き抜くこと」だったのです。そして、ゆっくりと目覚めることは、急激な1体温上昇をさせ、1体を正常に1日戻す工夫なのです。一見すると、のんびりおっとりやのねぼすけくんにみえますが、長い目でみれば、そこには大きな変化や大切なことが含まれているのだと、自然をみつめているとしばしば感じることがあります。

人もそれぞれの育ちやあり方があっていいと思います。

ひらひらの子どもたちも、「ありのまま」「ゆとり」生きていくために大切な根っこをしっかりと、少しずつ育んでいきました。

— 何か月もじーっと動かぬことのなつた子。何かあると、その場から逃げだしてしまつた子。車目の返事が取れずかしくて、言えなかつた子。泣きだしたら、長い間泣き続けていた子。—

それぞれ、自分の想いと向き合い、周りとそんな日々でもみつめていたのだと思います。すぐには見えなかつたけれど、ゆとりとどの子も変わっていききました。目にみえるものだけではなく、変化もたくさんありました。

そして、そこには、そばにいて、励まし、受けとめてくれた仲間、信じて待っていてくれた人達がいました。たくさんの手を借り、見守られながら育ちました。

寒さの中だけではあるけれど、互に互に育っている一人一人の姿に、この時期もいつも、とても嬉しくなります。

春にはじめてひらひらに来たとき、1年前、2年前... 4年前を思い返すと、様々な子どもたちの姿が甦ってきます。スタッフで、そんなことを話していると、あっという間に時間が過ぎてしまします。

それぞれの時の中で、じっくりと、でも確かに変わってきた子どもたち。今年度もあと少し。残りわずかの時を大切に、すごしていきたいと思っています。

：菜々恵



おおきいくみだより

おおきいくみの子どもたち、特におおきく、くりさんの年齢になると、身体能力もぐっと発達することから、「スピードがあり、スリルがあって、スキルがアップしていく」。そんな3Sがそろった遊びに夢中になります。雪が降りない今冬、雪だるまや雪山をつくり...という遊びはなかなか出来ませんが、その代り3Sがそろつたまたそり遊びを楽しんでいます。

冬のはじめのそり遊びは、少しハラハラします。滑り終えた人がまだ立ち上がっていないのに、次の人が滑ってしまい、下で衝突してしまうことも間々あります。坂を登ってくる人の列も、そりが突っ込んでしまうこともしばしば。失敗を繰り返しながら、楽しく安全にそり遊びかきできるように約束を確認しています。滑り始める前の「ハーッ?」の声、「いいよー!」「まだだよ!」と滑り終えた人や周りの人が答えます。坂道を歩く側と滑る側に合図して、「そちらは滑る道だよ、歩く時はこちらだよ」と声かけあう場面も見られるようになります。そうやって約束を浸透してきて、トータルも減り楽しい時間も長く続くようになります。

チャイルドの横の坂は、傾度が急なので、かなりスピードが出ることもあり、そこでのそり遊びも加速する人もいました。しかし、海軍が始めた「あまろし滑り」が大流行。ここ、ここの児童も加わり、愛着、楽しさで大盛り上がり。そりを使わず、腹ばいになって滑るあまろし滑りは、そりだとスピードが出すぎて怖かった人々たちにも大人気です。

周回道路の緩やかな坂は、降雪量が多く、車で踏み固められてアイスバーンになり、恰好のそりコースになっています。新調は赤いそりは少し長めのサイズ。透香、悠太、陽麗は3人でそりに乗って滑るのが大好き。坂を登りながら「次は誰が一番前になる?」と相談しています。星は、右手と地面につけて右側に、左手をつけて左側に曲がることを発見したようで、コースから外れそうになって上手に進行方向をコントロールしています。泰雅はオリンピックのホフスレー選手のようにになり、かなり速く滑っています。

紅葉谷には急で長い坂があります。ここを滑るのは勇気が必要。宇大朗が挑戦すると、木に激突。「けかないかあ?」の宗悟の呼びかけに、苦笑いで答える宇大朗。再挑戦に見事に滑り降りしました。父が誰か2人で乗っていた理央が、1人乗りチャレンジ。想像以上のスピードで下でしょう。止まった所でそりに座りたま「こわかった」と大泣き。それでも涙も乾かないうちに、そりを使って坂を登っていました。

坂を登って、そりで、お腹で、お尻で滑ることと延々と繰り返している寒さで強張っていた全身も緩み、汗ばむほどに身体もほかほか。あという間に時間も過ぎていきます。冬ならではの3S(スピード、スリル、スキル)な遊び、満喫中です。(文中、敬称略)

真之介

お知らせ

- ・保護者会 日時 2月4日(火)
9時20分～ メインホール
- ・来年度入園予定の方達の親子体験入園が始まります。
子供とお友だちも入園する小学校の先生も見学のため来園予定です。
- ・2月のアート日 2月13日(木) 今年度最後に行われます。
- ・2月のエリントイレ日 2月19日(水)
メインホールで「行いずのぞ」などお楽しみください。
- ・じわんや団体登録代金を納入袋にて請求させていただきます。
よろしくお願ひいたします。
- ・「大人のためのアート時間」のお知らせ。
日時 3月6日(木) 10時～1時間位
場所 ひびの森
持ちもの ・子ども達と同じアートセット
・寒い時期ですので 筆を持つてくる年長をご用意ください。
講師 小林郁絵さん
参加対象 おおきくみのお友だちとお母さんです。
参加費 1000円
ご希望される方は、お友だちから2月中旬に申請をお知らせ下さい。

田畑で"ふり

今年で冬の田畑は雪に覆われていないが、ニンニク来て冬までゆるみだいたい地面が見えてきまけり。秋の終わりに 稲わらと土かたものを引き込んで水を入れている田んぼは半分くらい水が干上がり、それでも鳥たちは凍っていない水面を自衛してエサを探しやっています。普通用水路から水を引き入れている田んぼは、冬の間水路を閉じられるため水を入れられなことが多いいですが、おたろの田んぼは涌き水を直接入れているため、冬も豊かに水を入れることができてのほうらしいことです。田んぼに水をためることで稲わらは分解して栄養となり、水に棲む生き物の営みが冬の間も続くことで田んぼの土は肥沃になります。

秋に種まきの畑の小麦は雪の中にも青々としていて、冬に霜柱に立ち上げられるので「麦踏み」をして根が凍まるのを防いでやりまわす。11月には青い芽をキュッキュと上から足で踏みつけるのでちょっとかわいそうに感じますが、踏んだ後またピンと伸びている姿は、まるで「遠い春」を待っているようです。



ひびひレシピ Note 「豆乳あんかけ丼」

- ・お風呂にサウダ油を熱し、みじん切りのしょうが、長ねぎと豚に牛肉をよく炒め、塩こしょうします。
- ・そこに人参、玉ねぎ、大根、白菜など季節の野菜を千切りにしてものを次々入れて炒め、全体がしんなりしてきたら酒、みりんを振入れ少量の熱湯を注いで煮えてアクを取ります。
- ・ひと煮立ちしたら豆乳を加え、塩、しょうゆ、オイスターソースで味を整え、水溶き片栗粉でとろみをつけます。
- ・別にゆでておいたしらたき、チンゲン菜などの青菜を刻んだものを散らします。
- ・黒米ごはんには白い豆乳あんをかけると滑り易やかに出来上がり！
- ・真冬の外のひらひらランチには、冷めにくいあんがけが大活躍。ネギとしょうがで身体もホカホカと暖まりますよ。

ひの、ひの森の小鳥たち (アカゲラ)

「静かに森の中、響く音は～♪ 大工のキツツキさん木をきる音～♪」

子どもたちの大好きな手遊びが歌にも登場するキツツキ。「キツツキ」というのは総称で、軽井沢の森には、コゲラ、アカゲラ、アオゲラという3種をみることができます。その中で、お腹と頭の後（オスのみ）が赤いのがアカゲラです。

彼らが木をつつくのは①求婚のため(春先にものすごく早い音が聞=える【ドラミング】)

② 巣づくりをするため(春～夏) ③ エサを採る(枯れ木が多い). というのが主な理由です.

今の季節は③の理由で木をついでいることがほとんど

ですが、もうすぐ、3月に入り、あたたかくなってくると、

タララララ... という「ドラミング」の音が昇天のように

響いてくることでしょう。そんな日が待ち遠しいですね！

